

第5回酪農後継者育成塾が開催されました

生産本部 営農指導課

去る、2月27日（木）に第5回酪農後継者育成塾が開催され、25名が受講しました。

今回のテーマは「哺育管理を見直そう！～良い乳牛は良い子牛から～」と題し、全酪連酪農技術研究所の村山恭太郎氏を講師に迎え、ご講演いただきました。

村山氏はまず、「子牛は生まれたときに免疫グロブリンを持っていないため、初乳を飲むことで免疫グロブリンを取り込む必要がある」と説明されました。また、2020年に子牛の免疫移行の基準が大きく改定され、生後24～48時間の血清IgG濃度の目標値が10g/L（旧基準）から25g/L以上（新基準）に変更された事を紹介されました。



村山氏

生後24～48時間の血清IgG濃度の改定内容

- ・旧基準
 - 0g/L-10g/L（不十分な免疫移行（×））
 - 10g/L以上（十分な免疫移行）
- ・新基準
 - 0g/L-10g/L（Poor（×））
 - 10g/L-18g/L（Fair（△））
 - 18g/L-25g/L（Good（○））
 - 25g/L以上（Excellent（◎））

「Excellentの子牛は疾病が少なく、発育も良好である」とし、若齢預託矢吹牧場での調査結果をもとに解説されました。Excellentを達成するためには体重42kgの子牛で300gのIgGを給与する必要があります、免疫移行を成功させるためのポイントを次のように示されました。

- ①初乳の品質：初乳計またはBrix計（糖度計）で初乳中のIgG含量を確認。
- ②迅速な給与：出生後6時間以内に給与する。
- ③初乳の給与量：IgG300gを目安に給与。（代用初乳の活用も推奨）
- ④清潔さ：清潔な初乳を給与。

哺乳管理では、2021年に北米の乳牛飼養標準（NASEM2021）が改定され、子牛のエネルギー要求量が大幅に増加したことを受け、哺乳管理の見直しも求められていると解説され、次のポイントを挙げられました。

- ①移行乳→代用乳への切り替え時は哺乳量ではなく、固形分としての摂取量を考える。
- ②高い発育を目指すときに給与する代用乳は、
 - ・CP28%以上が必要。
 - ・エネルギーは少し高めでも良い。
- ③発生した下痢には対症療法として、経口補液が重要。
- ④離乳時のスターター摂取量の目安は1.5kg/日。
- ⑤スターターと乾草の混合はDMI・発育を低下させるため、混合するなら5%までに抑える。

また、カーフフィーダー（哺乳ロボット）の特徴と設置時の注意点についても説明がありました。

講演後のグループワークでは、「各牧場の哺育期の問題点及び解決策」をテーマに議論し、塾生同士で意見を共有しました。



講義の様子

さらに、今年度の酪農後継者育成塾（全5回）に皆勤出席された11名を表彰しました。

令和7年度も酪農後継者育成塾の開催を予定しています。

酪農後継者育成塾のご質問等は担当までご連絡下さい。

窓口は経営支援課に変更になりました。

（経営支援課 ☎096-388-3516）

COLUMN — コラム —

サシバエ対策おじさん 誕生秘話



住化エンバイロメンタル
サイエンス株式会社
八木 智彦

はじめまして。住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社の八木智彦と申します。この度は貴重な機会をいただきまして、ありがとうございます。コラム執筆の依頼をいただくのは初めてです。何を書けばいいのか迷いますが、私が今の仕事をするようになった経緯、これからの目標などを書きたいと思います。

私は、畜産とは全く関わりのない家庭で三人兄弟の長男として生まれ、犬好きの母親の影響を受けたのか小さい頃からセミ採り、ザリガニ採りに明け暮れ、家ではカメ、ニシキヘビを飼育しておりました。(弟2人は動物に興味がないようです。遺伝とは不思議ですね。) そんな幼少期を過ごしたこともあり、高校生の頃には「将来は動物に関わる仕事がしたい」と漠然と考えるようになりました。ムツゴロウさんの影響で子供のころから自然豊かな北海道に憧れがあり、かつ私の学力でも入れる大学として選んだ酪農学園大学 酪農学部へ進学しました。右手にギター、左手にニシキヘビを持って新千歳空港に降り立った時のことは昨日のように覚えております。

大学、大学院では応用昆虫学研究室に所属し、牛伝染性リンパ腫ウイルスの伝播阻止を目的とした吸血性アブ類の防除方法の確立をテーマに研究しておりました。その中で殺虫剤原体を評価する機会や牧野のマダニ対策剤「ダニレス」の再審査試験を教授が引き受け、その試験をがむしゃらに手伝っていたことが評価され、運良く現在の会社に拾ってもらえました。

さて、皆さまはハエ対策と聞くとどのようなイメージをお持ちでしょうか？手間がかかる割に対策してもすぐにハエが増えて元通りになる、コストの割に費用対効果が得られない、ハエ対策にお金と時間をかけるくらいならエサや牛舎設備に投資したい、などなどネガティブなイメージをお持ちの方が多いと思います。これはしっかりとした使い方、プログラムを提案してこなかったメーカーの責任だと感じています。中途半端な薬量を

使用されても農場内のハエは減りません。「ハエ対策をやる時は徹底的に」をモットーに、我々は農場さんごとの

プログラムを作成し、年間コストをすべてお示ししてからハエ対策をやる／やらないを決めていただくような活動をしており、農場さんにも成功体験をしていただけるよう努めております。

過去に、とある農場のハエ対策を任されることになり、農場の殺虫剤プログラムを組んで年間使用量を算出した上で提案したところ「想像以上の金額だがやってみようか」と言っていただきました。プログラム開始前に従業員さんへの勉強会を実施して、現場フォローを継続した結果、サシバエ数が激減、乳量が大幅に増加し、農場の利益が上がりました。「対策をやってよかった！ありがとうございます！」と言われたことがとても嬉しく、農場さんと成功体験を共有できたことは非常に貴重な経験でした。この経験が今の私のスタイルを決定づけ、「売ること」よりも「農場さんが喜ぶこと」を大切にするようになりました。これからは全国の農場さんへ「正しいハエ対策」を普及して、ハエ対策にお困りの農場を少しでも減らしていきたいと考えております。

最後に、サシバエ対策とダイエットは似ていません。いい殺虫剤、いいプログラムがあっても対策を実施されるのは農場さんです。我々はプログラムを提案し、定期的なフォローをするところまでしか出来ません。それでも我々を信じていただければなら全力でサポートさせていただきますのでお声がけください。

経歴

- ・兵庫県宝塚市出身、3人兄弟の長男
- ・2007年9月 酪農学園大学 酪農学部 卒業
- ・2010年3月 酪農学園大学大学院 酪農学研究科 修了
- ・2010年4月 住化エンバイロメンタルサイエンス株式会社 入社

**熊本県酪農専門農協協議会第26回通常総会開催される
「酪農経営安定化に向け、酪農情勢変化への対応を」
—新しい役員体制の下、組織整備の進展へ—**

去る、令和7年2月21日、熊本県酪農専門農協協議会の第26回通常総会が県団体支援課農林団体指導班長永松主幹、全酪連福岡支所高橋次長、らくのうマザーズ隈部会長・大川専務・小池常務他多数のご来賓列席のもと、KKR熊本にて開催されました。

冒頭、池田副会長（ホワイト酪農協）の開会後、山田協議会会長（西阿蘇酪農協組合長）の挨拶が述べられました。

山田会長は「この一年間は、協議会会員協力のもと酪農生産者の経営基盤を第一主義に活発な事業展開を行ってきた。事業の柱である全体講習会や全体研修会を実施できたことは、会員みなさんのご協力のたまものと感謝申し上げたい。まだまだ酪農情勢厳しい中で、幸いにも会員皆様の多大なご協力をいただいております、組織整備協議での進展もみており、今後も積極的な活動を推進したい」との挨拶でした。山田会長挨拶に続いて、らくのうマザーズ隈部会長、県団体支援課永松主幹の来賓祝辞後、山田会長を議長に議事に入りました。

議事では「令和6年度事業報告及び収支決算承認の件、令和7年度事業方針及び収支計画承認の件、令和7年度会費の賦課並びに徴収方法の件」以上の議案について、衛藤監事（熊本酪農協組合長）の監査報告もまじえての慎重審議の結果、全議案原案どおり可決承認されました。また、第4号議案で役員改選が行われ、会員相互の互選により、別表の通り役員体制が決定いたしました。

令和6年度は、酪農経営が厳しい状況のなかで、将来の酪農情勢変化に対応していくための意見交換と組織整備での課題解決に向けた活動を図る年度でした。

こうしたなか、九州農政局次長渡辺裕一郎氏を講師に、「酪農をめぐる課題と対策について～九州の畜産・酪農が取り組むべきこと～」や農林水産省畜産局牛乳乳製品課（需給班担当）課長補佐鈴木雅人氏を講師に「酪農・乳業情勢について」の全体講習会を開催してきたところです。さらに

は専門農協による組織整備の取組促進に係る幾度もの全体会議開催等、活発な活動が行われました。

令和7年度は依然として酪農情勢の厳しい環境下ではあるものの、さまざまな事業展開を図りながら酪農経営の安定化や本県酪農業発展に資する活動ならびに関係機関との連携協調に努めていくこととされています。

そして、山本副会長（大阿蘇酪農協組合長）閉会挨拶後には、意見交換や情報交換を図る懇親会が開催され、和やかな中に交流の促進が図られていました。

今後も酪農専門の協議会として、一致協力の方向性にて進めていくこと、また酪農専門農協活性化のため、尚一層の努力をもって取組むことが確認された総会となりました。

第26回総会 役員選任

役 職	組 合 名	氏 名	備考
会 長	西阿蘇酪農協同組合	山田 政晴	再任
副会長	大阿蘇酪農協同組合	山本 健二	再任
	ホワイト酪農協同組合	岩見 誠也	新任
監 事	熊本酪農協同組合	衛藤 彰一	再任
	大矢野地方酪農協同組合	水野 幸也	新任



新役員写真

第49回 熊本県酪農発表大会 開催!!

(熊本県酪農青壮年部協議会・熊本県酪農女性部協議会、らくのうマザーズ共催)

3月7日(金) らくのうマザーズ本会大会議室にて第49回熊本県酪農発表大会が開催されました。



中村委員長



小池常務

大会の冒頭に、県酪農青壮年部協議会の中村委員長、らくのうマザーズの小池常務、来賓である県庁畜産課の下西課長補佐にご挨拶をいただき、2名の方に発表して頂きました。まず、酪農経営発表の部では玉名酪農協青壮年部の(株)高木牧場取締役の高木大輔氏が「高能力、低コストで目指す安定経営」と題し、ご自身の就農から現在に至るまでの経緯や、牧場での低コストに向けた取



経営発表の部
(株)高木牧場取締役
高木大輔氏
(玉名酪農協)

組事項を中心に発表されました。続いて意見・体験発表の部では、熊本酪農協青壮年部の佐藤翔悟氏が「これが俺の人生～ヘルパーからの独立就農～」と題し、ご自身の新規就農までの道のりや現在の牧場の経営概況、酪農への思いについて発表していただきました。

発表された2名については、4月16日(水)にサザンビーチホテル&リゾート沖縄(沖縄県糸満市)にて開催される、第52回九州酪農青年女性酪農発表大会に出場される予定です。熊本県の代表として出場されますので、皆さんもご声援のほどよろしくお願いたします。



意見体験発表の部
佐藤翔悟氏
(熊本酪農協)



審査講評
加治屋主幹(県畜産課)



全体風景



表彰風景

薬剤耐性菌について

技術課 黒木 博敏

近年、薬剤耐性菌の問題が話題に上ることが多くなりました。薬剤耐性菌とはある特定の抗生物質に対して耐性を持った菌の総称で、抗生物質が効かない、または効きにくい菌のことを言います。直近でもホスホマイシン（抗生物質の一種）を使用した牛はEUに出荷できないというニュースがありました。これも薬剤耐性菌に関連しての規制で、EUではホスホマイシンに対する耐性菌の出現と拡大を抑えようとする動きがあるためです。通常の菌が薬剤耐性菌に変化する原因は突然変異によることなどが考えられています。また、薬剤耐性菌から他の菌に薬剤耐性の能力が伝達されることもわかっています。つまり、周りの環境中にある通常の菌も薬剤耐性菌となりうるし、薬剤耐性の能力を拡散することがあると言うことです。

薬剤耐性菌には、ある特定の抗生物質に対してだけ耐性を持つもの、同じ系統の抗生物質に対して耐性を持つもの、またその他の系統の抗生物質に対しても耐性を持つものが存在します。さらに問題となっているのは、ある種の耐性菌が他の薬に対する耐性を獲得し、複数の抗生物質に対しての耐性を持った多剤耐性菌となってしまうことです。

感染症の治療をする際、抗生物質を使用すると、通常の菌は弱ったり死滅したりしますが、耐性菌は生き残ります。結果、その環境中で増殖して多数を占めることとなります。そうなってしまうと、当然薬自体が効きにくくなるので、病気が治りにくくなります。また、他の個体にも耐性菌が感染してしまう確率が高くなります。

耐性菌の増加は、人の医療分野でも大きな問題になっています。皆さんも病院で抗生物質を処方される時に「必ず飲み切ってください。」と医師や薬剤師に説明を受けたことがあるのではないのでしょうか。これは、抗生物質の中途半端な使用によって薬剤耐性菌を増やさないようにすることが重要視されるようになったためです。

病気の原因菌の検査として原因菌の抗生物質に対する感受性を調べていますが、これはその菌に効く抗生物質を調べると同時に、薬剤に対する耐性を調べより効果的な治療をするために行っています。

現在使用できる抗生物質の種類が限られており、また新規に抗生物質を開発するにも莫大な費用と長い時間がかかります。大切な資源でもある抗生物質を使用する際は、獣医師の指示のもと必ず容量用法を守って効果的な使用に努めてください。

そもそも感染症にかからないような予防に力を入れることも大事です。ワクチンの投与や飼養管理や環境などを整え、健康な体を保つことが感染症への抵抗力を高め、ひいては生産性のアップへとつながります。

耐性菌自体は薬が効かないだけで、病気を引き起こす力自体が強くなるわけではありません。薬はあくまで動物自身の治癒力をサポートするためのものです。

最終的には、生物に備わっている免疫力で原因菌を退けていけるように、体力を保持させておくことが大事です。

令和6年度 第2回 熊本県ホルスタイン種推奨種雄牛を選定!

生産本部 指導部 経営支援課

令和7年3月19日(水)に本会3階中会議室にて、令和6年度第2回熊本県ホルスタイン種推奨種雄牛選定会議を開催しました。会議には、熊本県乳牛改良同志会、熊本県乳用牛群検定組合、熊本県酪農青壮年部協議会の各代表者に選定委員としてご参加いただきました。

選定会議では、2月に公表された国内種雄牛評価値(NTP)と12月に公表されたアメリカ種雄牛評価値(TPI)、カナダ種雄牛評価値(LPI)ドイツ種雄牛評価値(RZG)を参考に、各授精所から種雄牛をご推薦いただき、協議の上、推奨種雄牛を決定しました。

なお、選定基準は、原則としてNTP換算40位以内であり、産乳成分、耐久成分(乳器・肢)、長命連産改良に顕著な特徴がある種雄牛で可能な限り判別精液を有する種雄牛が選定されました。

その結果、下記の通り国産牛5頭、輸入牛6頭の合計11頭となりました。それぞれの特徴については、次号の裏表紙に掲載を予定しております。詳しくは、弊会精液担当者までお問い合わせ下さい。

尚、近親交配を避ける為、登録証を確認の上授精をお願いします。

国産牛

順位	NTP	略号	名号	血統		価格帯	
				父	母の父	通常	雌価格
検定済み種雄牛							
NTP第1位	3,347	JP3H58982	ハッピークロスモデルET	アルタモレノ	プロフィット	3,000円台	8,000円台
NTP第4位	3,289	JP5H60039	センミヤLSフクキチET	モントーヤ	ジエダイ	3,000円台	8,000円台
NTP第6位	3,215	JP3H58612	シマラギリジツトスター	JCスター	エピックセーブ	1,000円台	4,000円台
ヤングサイア							
GNT第1位	3,585	JP3H61707	RARA-GEN デコレーションオレンジET	オレンジサラダ	ピークリレイ	3,000円台	8,000円台
—	3,197	JP4H61098	ウインホープザツハET	フクキチ	ヒューイ	2,000円台	7,000円台

輸入牛

順位	NTP 換算	略号	名号	血統		価格帯	
				父	母の父	通常	雌価格
検定済み種雄牛							
TPI第1位	3,457	551H4119	ジエノソースキャプテンET	チャール	セイバー	—	12,000円台
TPI第3位	3,684	14H15179	ブレインノールレネゲードトウルーパーET	レネゲード	レジエンダリー	4,000円台	8,000円台
TPI第60位	3,244	200H11186	パインツリーIパーズーツET	アイマックス	プロフィット	—	8,000円台
ヤングサイア							
—	3,540	551H5515	ジエノソースパーチューET	ハリウッド	キャプテン	—	7,500円台
—	3,725	511H16844	ピークCHアルタインスパイアET	パワースター	マグニフィック	5,000円台	10,000円台
—	—	7H16276	OCDトウルーパーシープスターET	トウルーパー	アキュラ	6,000円台	12,000円台

第10回九州連合乳用種経産牛枝肉共励会

去る3月8日(土)、菊池市七城町の(株)熊本畜産流通センターに於いて、第10回九州連合乳用種経産牛枝肉共励会が開催されました。この枝肉共励会は酪農生産事業推進研究会及び全国酪農業協同組合連合会が主催し、九州5県より乳用種の経産牛24頭が出品されました。

審査の結果、最優秀賞は大富力さん(佐賀県農協)の等級B-3、枝肉重量385.6kg(生体重723kg、BMS No.4、BCS No.5、ロース芯面積40.0cm²、ばらの厚さ5.2cm)が受賞されました。熊本県出品牛からは優秀賞を土井信二さん(火の国酪

農協)と新永文治さん(熊本酪農協)が受賞され、惜しくも最優秀賞は逃したものの非常に良い格付評価をいただきました。

最優秀賞の枝肉は、1kg当たり1,310円の単価を付け、交雑種並みの高値となりました。

共励会全体としては、平均生体重量846.0kg、平均枝肉重量449.1kg、平均ロース芯面積37.0cm²、平均枝肉単価845.5円となりました。

今回熊本県からは9頭が出品され、本県出品牛の平均枝肉単価は、917円でした。

枝肉共励会出品データ(平均値)

	生後月齢 (ヶ月)	生体重 (kg)	枝肉歩留 (%)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 (cm ²)	ばらの厚さ (cm)	皮下厚さ (cm)	BMS No.	BCS No.	BFS No.	単価 (円)
全体平均	67.9	846.0	53.0	449.1	37.0	4.6	1.7	2.3	5.0	3.5	845.5

枝肉共励会入賞者一覧

出品組合名	出品者	褒賞
火の国酪農協	土井 信二	優秀賞
熊本酪農協	新永 文治	優秀賞



主催者



全体写真



枝肉断面図



枝肉写真